

DAY:2 光明市の名所巡り

編集：逗子開成高校1年 野村哲士

室内型テーマパーク「Sports Monster」 9:30-13:00

TAKE HOTELからバスで約1時間半かけて、ソウル郊外にある大型ショッピングセンター、「STARFIELD河南」へ。地下4階から地上4階まであり、一日中かけても回り切れない程の巨大施設にあるのが、室内型テーマパーク「Sports Monster」。「Sports Monster」には、バスケ、サッカー、射撃、ボルダリングから滑り台やバーチャルゲームまで、なんと約30種類以上の運動とエンターテインメントが揃っている。

中でも印象的なのは、アスレチックコーナー。HARD/EASYの2種類のコースから選ぶことができ、高所恐怖症のパートナー、スンファンとその仲間たちは迷いなくEASYコースを選んでいたが、私と大学生の補助員、パク・サンヒョン先生でHARDコースを選択した。また、沢山の友人たちとバスケットコートでゲームを楽しみながら、まだ交流出来ていない仲間とも親しくなることができた。因みに、ペアミッションの「5つ以上アミューズメントを体験する」という目標は未達成。(バスケ、射撃、アスレ、テニスの4項)

「Sports Monster」で一汗かいて腹を空かせたら、ショッピングセンター内で昼食の、チーズダッカルビ。その後数人でGong Chaへ行ったのだが、帰国後、初めてGong Chaが台湾発祥のチェーン店だと知り、驚いた…



歴史がつまった光明洞窟 15:00-16:00

入り口に近づくと、なんと真夏でも15°Cの冷気が。ここは旧・鉱山洞窟である「光明洞窟」。かつて首都圏最大級の規模を誇っていた鉱山洞窟を利用した観光スポットで、洞窟内では各種展示はもちろん、洞窟内にある劇場での公演や、砂金体験など様々な文化プログラムが用意されている。またワイン洞窟・ワインレストランも人気らしい。涼しさを越えて少し寒いほどなので、長袖を持っていくべきだった。

歴史的遺跡である場所を、沢山のスポットライトでキラキラなテーマパーク化しているのは流石、日本との文化や風土の違いを感じられた。観光地として一般人が入れるのは僅か9階層中たったの2階。あんなにも巨大な洞窟に感じられたが、まだまだ広がっているようだ。

現地の学芸員のおじいさんに、洞窟に関わる深い歴史の解説をして頂いたのだが、翻訳者によって相当内容が簡素化されていたらしく、残念だ。韓国語と日本語の両方分かる数人の友達か、クスクス笑っていたのが羨ましい。洞窟入り口にある、慰安婦像も話が複雑なためか、誰も触れていなかった…

数か月前にニュージーランドへ研修旅行をした際、行くことが叶わなかった念願の「Weta WORKSHOP」を洞窟内で偶然発見。数々の有名なハリウッド映画に関するアイテムや等身大のフィギュアが展示されている。写真スポットにある巨大なドラゴン像は、ニュージーランドから、光明洞窟を記念して寄贈されたものらしい。



光明伝統市場で夜食調達 17:00-19:00

駅前の繁華街で少し観光。なんと1400ウォン(約140円)でプリクラを撮影したり、カフェでホイップたっぷりのドリンクを購入したり。一緒に行動していた光明側の団長、ジュヨンによれば、とても美味しいうどん屋があるらしい。

TAKE HOTELの最寄り駅、クァンミョンサゴリ駅から地下鉄で一駅、チョヌァン駅に隣接する、光明伝統市場へ。市場では中国系の方々も多いらしく、実際、多くの中華系料理が陳列されていた。男同士での夜食用としてスンファンと共に、ヤンニョムチキン、トッポギ、韓国式ソーセージ、豚足、ハンバーガーなどなど山ほどの食材を購入。食べきれず残ってしまった食品は、私が気付いた次の朝には廃棄されていて、ショックを受けた…確かに安値ではあったのだが。



一日を振り返って

1日目では初対面のために、少しこぢない雰囲気もあったのだが、すっかり2日目からはアクティビティを通して、お互い仲良くなっていった。バス車内の移動時間や食事の時には他のペア達と何とか英語でコミュニケーションを取り、共に楽しい時間を過ごした。

念願の夜食タイムでは、男子大学生の先生たちも一緒になり、男同士友情を深められた。女子部屋のパーティーでは殆ど寝なかった人も多かったとか…

